

※クリックすると記事のページを開きます。

① 2016 年度派遣（2017 年 2 月 19 日～3 月 4 日）	2
② 2017 年度派遣（2018 年 2 月 18 日～3 月 3 日）	6
-プログラム概要	6
-2017 年度ラオスショートビジットプログラム報告	8
③ 2018 年度派遣（2019 年 2 月 24 日～3 月 9 日）	12
-2018 年度ラオスショートビジットプログラム概要	12
-2018 年度ラオスショートビジットプログラム報告	14

① 2016 年度派遣（2017 年 2 月 19 日～3 月 4 日）

地域言語 A でラオス語を専攻している 1 年生 9 名が、2017 年 2 月 19 日～3 月 4 日までの 2 週間、ラオス国立大学でラオス語研修を行いました。

2 月 19 日、成田からベトナムのハノイ経由でラオスの首都ビエンチャンに到着。早朝、日本を出て、ラオスに着いたのは夕方の 6 時すぎ、さすがに疲れました。

2 月 20 日、今日からラオス国立大学文学部ラオス言語文化学科で授業が始まります。ラオス国立大学は首都ビエンチャン郊外にある総合大学です。開講式、キャンパス案内の後、授業が始まりました。授業は東京外国語大学で 1 年間基礎を学んだ学生用の特別コースで、本コースを修了すると、外大での卒業に必要な単位として互換されます。

2 週間、授業を担当して下さったのは、カムマー先生とブアソーン先生です。お二人の先生の笑顔に、緊張がほぐれました。



ビエンチャンのワッタイ空港に到着



開講式

（文学部副学部長が出席して下さいました）



カムマー先生の授業（読解）



ブアソーン先生の授業（会話）

2月22日、ラオス語の授業後、日本語学科との交流会を行いました。日本語学科の学生さんが40名ほど集まってくれました。日本で練習してきた日本観光案内のプレゼンテーション、歌の披露の後、一緒にラオス料理を作って試食しました。



ラオスの国花チャムパーの歌を歌いました



ラオスの主食・もち米を蒸すところ

2月23日、ラオス語の授業にも慣れてきました。授業の後、ランサン王国時代に建立された仏塔・タートルアンとビエンチャン市内を見渡せるパトゥーサイを見学しました。

2月26日、研修期間、唯一の休日、一日自由に過ごしました。



パトゥーサイをバックに記念写真



トゥクトゥクに乗って、皆で市内観光へ

3月1日、二回目の日本語学科との交流会を行いました。ラオス国立大学案内ビデオ作成班、ラオス国立大学生へのインタビュー班、寸劇班の3つのグループに分かれて、グループ学習をしました。成果発表はラオス語で行いました。終了後は、チョームチャイ先生（ラオス国立大学から東京外国語大学に出向中）がラオス風焼肉“シンダート”を食べに連れて行ってくれました。



記念写真（中央がミーサイ学科長）



シンダート（中央奥がチョムチャイ先生）

3月2日、午前中の授業の後、少し遠出をしてラオス・タイ友好橋、ワット・シェンクワンを見学に出かけました。

3月3日、いよいよ授業最終日です。午前中の授業の後、閉講式に臨みました。文学部の副学部長から修了証をいただき、各自3分程度のスピーチを行いました。日本、ラオスの授業比較、故郷について、寿司につ

いて、留学の意義など、それぞれが2週間学んだ成果をスピーチに込めることが出来ました。副学部長のケットケーオ先生やラオス言語文化学科長のセーンファー先生からお褒めのお言葉をいただきました。



メコン河にかかるタイ・ラオス友好橋



ラオス言語文化学科長（右）の挨拶、左は副学部長



スピーチの様子



【修了証を手に記念写真】

ラオス語研修、ラオス人学生との交流、史跡や文化的施設の見学と盛り沢山の 2 週間でした。ラオスでラオス語を使用する機会を得、ラオス人の生活や文化を知り、同年代の学生との会話が弾んだ 2 週間はあっという間でした。夜、8 時の飛行機でハノイを経由し、3 月 4 日、早朝、全員無事に成田に到着しました。

なお、本研修に関しては、大学の世界展開力強化事業（ASEAN 地域における大学間交流の推進）により、ラオス人教員による引率支援を受けました。

② 2017 年度派遣（2018 年 2 月 18 日～3 月 3 日）

-プログラム概要

1)日程： 2018 年 2 月 18 日～3 月 3 日

2)研修先：ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科

Dept. of Lao-language & Culture,

Faculty of Letters, National University of Laos

P.O.Box 7322, Dongdok, Vientiane, Lao P.D.R.

3)参加者：東京外国語大学 地域言語 A「ラオス語」専攻の 1 年生全員 9 名

4)研修名：東京外国語大学生のためのラオス語短期集中講座

5)時間割：時間 8:00-9:40, 10:00-11:40, 13:00-14:40, 15:00-16:40

（詳細は別紙ラオス語時間割表参照）

2/18(日)	2/19(月)	2/20(火)	2/21(水)	2/22(木)	2/23(金)	2/24(土)
ビエンチャン 着	開講式 ラオス語①	ラオス語②	ラオス語③ 文化①	ラオス語④	ラオス語⑤	文化②
2/25(日)	2/26(月)	2/27(火)	2/28(水)	3/1(木)	3/2(金)	3/3(土)
休日 (自由)	ラオス語⑥	ラオス語⑦	ラオス語⑧ 文化③	ラオス語⑨ (夕食)	ラオス語⑩ 閉講式	成田着

・ラオス語合計 38 時間：ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科

ラオス語のレベル：初級終了レベル

（文法を一通り終え、読み書きができる。短い読み物が読め、辞書がひけるレベル。）

授業担当教員・科目：「会話」セーンワン先生、「読解」ソムパイ先生

・文化合計 10 時間

文化①・③：ラオス国立大学文学部文学部日本語学科とタンデム学習

文化②：国立博物館などの校外研修

以上

-2017 年度ラオスショートビジットプログラム報告

特定外国語主任教員

スリカン・タムマウォン

東京外国語大学ラオス語専攻の1年生9名が、ラオス語とラオス文化を学ぶ「ラオス語短期研修プログラム」のため、ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科を訪れました。本プログラムの実施は今回が4回目で、2018年2月18日から3月3日の約2週間、実施されました（別紙時間割参照）。また、同期間内に日本語学科とラオス文化に関するタンデム学習も行いました。そのほか、ビエンチャン都内の歴史的な所や様々な文化施設を見学しました。

初日の19日、ポーサイ・テープウィライウォン副文学部長、セーンファー・ホーラヌパーラオス語学文化学科長、ワンカーン・タムパマンコーン副日本語学科長のご臨席のもと、開講式が開かれました。日本人学生を引率したスリカン・タムマウォン先生が「このプログラムによって日本人学生が、ラオス



（授業の様子）

語、ラオスの文化、そしてラオスという国をより理解することができるようになるでしょう」と挨拶しました。日本人学生も「歓迎していただきありがとうございます。一生懸命勉強します。特にラオスの文化やラオス語をたくさん学ぶために、ラオスの人とラオス語をたくさん話したり、いろいろな活動をしたいです。」と述べました。

ラオス語とラオス文化を学ぶこのプログラムには、ソムパイ・ヴィライサック先生の「読解」とセーンワン・マニウォン先生の「会話」の2つの科目があります。2月20日の午後には、ラオス言語文化学科のラオス人学生たちとの交流会がありました。そこでは、互いに和気あいあいとした楽しいムードの中、一緒にラオスの歌を歌ったり、サオ・シェンクワンを踊ったりしました。

2月21日の午後と28日の午後には日本語学科で日本語を学んでいるラオス人学生と、東京外国語大学でラオス語を学んでいる日本人学生とのタンデム学習を行いました。1回目は日本人学生のグループが「若者の新時代と日本の文化」という題で発表しました。皆が入れ替わりで、ラオス人学生にわかるように日本の各地の様子を映像を交えて



(日本人学生の発表の様子)



(バナナの葉の入れ物作り)

見せ、日本の文化紹介をしました。意見交換の後、ラオスの歌「ドウアンチャンパー」と日本の歌「世界に一つだけの花」を歌いました。ラオス人学生は、ラオス料理の作り方やラオスにある昔ながらの子供の遊びなどのラオス文化を紹介しました。例えばタマリンドの種のおはじき、ビー玉当て、ケップ実投げ、バナナの葉の入れ物作りなどで、ラオス人学生と日本人学生がそれぞれ交代で行いました。とても楽しくラオス文化特有の雰囲気を学ぶことができました。

2回目は、カオニャオ（ラオスのもち米）、トマトのチェオ（ラオス風みそ）、ピンガイ（ラオス風焼き鳥）とスップパック（ラオス風青菜の和えもの）をグループワークで作りました。そしてパーカオ（ラオスのお膳）を囲んで試食しました。こうして皆でラオス独特の文化や生活スタイルを学ぶことができました。ラオス人学生が、モン族のケーン（ラオスの笛）を奏でたり、ラオス舞踊を披露してくれました。



(パーカオを囲んで試食)

試食会からは、副文学部長や東京外国語大学の理事も合流し、学生たちとともに楽しみました。最後に学生が一人ずつ前に出て、タンデム学習で得られたことや感想を述べ、ミーサイ日本語学科長によって、タンデム学習の終わりが告げられました。



(日本語学科のみなさんと)

大学での学びの他に、日本人学生たちは、歴史、文化を学ぶため、タートルアン、ブッタパーク、パトゥサイ、カイソーン博

物館などを見学しました。学生たちは、これらによって崇高、かつユニークなラオス特有の文化の真の姿に触れることができました。

さらに特筆すべきこととして、3月1日の夜、ラオスで初めて第1回「東京外国語大学グローバルコミュニティ会合」が開催されました。東京外国語大学の卒業生をはじめ、もとラオス招聘教員、もと留学生が一堂に会し、お互いの情報交換と親睦深め、大変和やかなひとときを過ごしました。



(TUFS グローバルコミュニティ会合)

3月2日、日本人学生のショートビジットプログラムの最終日になりました。東京外国語大学の理事、教授、学生とラオス国立大学の文学部教授らが集まりました。本プログラムの終了のまとめとして、セーンファー・ホーヌパーブ ラオス語学文化学科長は「本プログラムは短い期間のプログラムでしたが、ラオス語を話すことにおいて日本の学生たちは十分能力を発揮し、よい成績を収めることができました。」と述べました。学生は各自、滞在中、印象に残ったことについてラオス語でスピーチを行いました。また、日本人学生代表がラオス語やラオスの文化を温かく熱心に教えてくださった先生方、関係の方々に感謝の言葉を述べました。

その後、ケットケオ・パンタニウォン副文学部長から、ラオス人学生と日本人学生とのダンデム学習とラオス語学習プログラムの成果について、学生一人一人に対してお褒めの言葉とともに、修了証が渡されました。また、勾坂克久東京外国語大学理事より東京外国語大学とラオス国立大学との協力関係、特にラオス語学文化学科と日本語学科の学生たちとの素晴らしい学習成果についてお話をいただきました。その後、本プログラムの日本側の責任者である鈴木玲子教授より「貴学の本学1年生に対するラオス語ショートビジットプログラムは、とても充実したもので、うれしく思います。皆様には心より感謝申し上げます。学生はラオス語の勉強の機会を得、今まで以上にラオス語を理解できたことと思います。ラオスの方々、ラオス国立大学の学生さんと交流の機会をいただき、ラオスの文化や生活を見たり、聴いたり、触れることができました。」とお礼の挨拶がありました。



(閉講式)



(ラオス国立大学事務棟前にて)

世界展開力事業「ミャンマー・ラオス・カンボジア 知日人材養成プログラム」の一環として実施した「ラオス国立大学 文学部ラオス語学文化学科における東京外国語大学ラオス語専攻学生のためのラオス語短期研修プログラム」は、とても穏やかな雰囲気の中、大成功に終わりました。

以上

③ 2018 年度派遣（2019 年 2 月 24 日～3 月 9 日）

-2018 年度ラオスショートビジットプログラム概要

1) 日程：2019 年 2 月 24 日～3 月 9 日

2) 研修先：ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科

Dept. of Lao-language & Culture,

Faculty of Letters, National University of Laos

P.O.Box 7322, Dongdok, Vientiane, Lao P.D.R.

3) 参加者：東京外国語大学 地域言語 A「ラオス語」専攻の 1 年生全員 11 名

4) 研修名：東京外国語大学生のためのラオス語短期集中講座

5) 時間割：時間 8:00-9:40, 10:00-11:40, 13:00-14:40, 15:00-16:40

（詳細は別紙[ラオス語時間割表](#)参照）

2/24(日)	2/25(月)	2/26(火)	2/27(水)	2/28(木)	3/1(金)	3/2 (土)
ビエンチャン着	開講式 ラオス語①	ラオス語②	ラオス語③ 文化①	ラオス語④	ラオス語⑤ 文化②	ラオス語⑥ 文化③
3/3(日)	3/4(月)	3/5(火)	3/6(水)	3/7(木)	3/8(金)	3/9(土)
休日 (自由)	ラオス語⑦	ラオス語⑧	ラオス語⑨ 文化④	ラオス語⑩ 閉講式	文化⑤	成田着

・ラオス語合計 38 時間：ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科

ラオス語のレベル：中級レベル

（文法を一通り終え、読み書きができる。短い読み物が読め、辞書がひけるレベル。）

授業担当教員・科目：「会話」ブンナック先生、「読解」キアンケーオ先生

・文化合計 10 時間

文化①・④：ラオス国立大学文学部文学部日本語学科とタンDEM学習

文化②：ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科と交流会

文化③・⑤：カイソン博物館などの校外研修

-2018 年度ラオスショートビジットプログラム報告

2019年2月24日～3月9日

特定外国語主任教員

スリカン・タムマウォン

東京外国語大学ラオス語専攻の1年生11名が、「東京外国語大学生のためのラオス語短期集中講座」のため、ラオス国立大学文学部ラオス語学文化学科を訪れ、ラオス語とラオス文化を学び、ラオス人学生と交流しました。本プログラムの実施は今回が5回目で、ラオス語学習の他、ビエンチャン都内の史跡や様々な文化施設を見学しました。



開講式

初日の25日にはブンルート・センスリン文学部長、セーンファー・ホーラーヌパーブ ラオス語学文化学科長、ミーサイ・スックチャルーン日本語学科長のご臨席のもと、本プログラム担当の先生方と共に開講式が開かれました。日本人学生を率いたスリカン・タムマウォンが、「このプログラムによって日本人学生が、ラオス語、ラオスの文化、そしてラオスという国をより理解できるようになることを期待します。」と挨拶しました。日本人学生も「歓迎していただきありがとうございます。ラオス語やラオスの文化を多く吸収するために、一生懸命勉強し、ラオスの方々とラオス語でできるだけ会話し、いろいろな体験をしたいと思います。」と述べました。

ラオス語とラオス文化を学ぶこのプログラムには、キアンケーオ・ヌワンナウォン先生の「読解」とブンナック・パラコーン先生の「会話」の2科目がありました。「読解」の授業では、日常生活で役立つように、読解の速度を上げること、正しい発音、単語の意味の理解、文章を正しく読み要点をまとめるという読解能力を高めことに重点を置きました。「会話」の授業では、正しい発音を心掛け、教室内での会話やラオスの人々との会話において、会話能力を向上させることに重点を置きました。どちらも中級レベルで内容は、市場や季節、観光、銀行、スポーツなど、ラオス人の日常生活でよく話題になる事柄でした。

これ以外にも3月1日の午後には、ラオス語学文化学科の学生との交流会があり、ラオス人学生と一緒にゲームをしてプレゼント交換をし、ラオスの歌やラオスのダンスを学びました。お互いに仲良くなり、楽しく盛り上がりました。



交流会

また、2月27日の午後と3月6日の午後には、ラオス国立大学文学部日本語学科で日本語を学んでいるラオス人学生とのタンデム授業を行いました。27日は日本人学生のグループが「日本の年中行事における食文化」という題で発表しました。皆が交代で、ラオス人学生にわかるように日本の食と文化を紹介しました。意見交換の後、ラオスの歌「ドゥアンチャンパー」と日本の歌を歌いました。一方ラオス人学生はラオスの文化を紹介しました。その後、ラオス人学生と日本人学生が一緒になってグループを作り、ラオスの地方の方言、ラオス人学生の生活、ラオス人の宗教実践について、グループごとに活動を行いました。最後に日本人学生が発表を行い、とても明るく楽しい雰囲気の中に終了しました。

6日はラオスの昔ながらの遊びをしました。ラオス版のハンカチ落としやゴム飛びです。さらに、ラオス人学生と日本人学生がグループになり、ラオスの伝統的なお菓子をラオス人学生に教わりながら作り、食べました。とても香ばしく、おいしかったです。その後、ラオス人学生と日本人学生と一緒にラオスの歌、日本の歌を歌い、にぎやかに過ごしました。ミーサイ日本語学科長による挨拶があり閉会しました。

大学での学びの他に、日本人学生たちは、歴史、文化を学ぶため、タートルアン、ブッタパーク、パトゥサイ、カイソーン博物館、織物工場などを見学しました。学生たちは、ラオスの特徴ある文化に実際に触れ、感銘を受けていました。

3月7日は、日本人学生がラオス国立大学でラオス語を学ぶ最終日でした。東京外国語大学の教員、学生とラオス国立大学の文学部の教



タートルアンの前にて

員が集まりました。本プログラムの終了のまとめとして、セーンファー・ホーラーヌパーブ ラオス語学文化学科長は「本プログラムは短い期間でしたが、ラオス語を話すことにおいて日本の学生たちは十分能力を発揮し、よい成績を収めることができ

ました。」と述べました。学生は、滞在中、各自が関心を抱いた事柄についてラオス語でスピーチを行いました。また、日本人学生代表がラオス語やラオスの文化を温かく熱心に教えてくださった先生方、関係の方々に感謝の言葉を述べました。

その後、ブンルート・センスリン文学部長から、ラオス人学生と日本人学生とのタンデム学習とラオス語学習プログラムの成果について、学生一人一人に対してお褒めの言葉とともに、修了証が渡されました。

最後に本プログラムの日本側の責任者である菊池陽子より「貴学の
本学1年生に対するラオス語短期集中講座は、今回で5回目です
が、学生がラオス語学習やラオス人学生とのタンデム授業を通して、
今まで以上にラオス語を理解できるようになったことをうれしく思いま



閉講式

す。また、ラオスの方々、貴学の学生との交流を通じて、実際のラオスやラオスの文化を体験することができました。皆様には心より感謝申し上げます。」とお礼の挨拶がありました。

こうして、世界展開力事業「ミャンマー・ラオス・カンボジア 知日人材養成プログラム」の一環として実施した「東京外国語大学生のためのラオス語短期集中講座」は、とても穏やかな雰囲気の中、大成功に終わりました。